

RACING PROGRAM 2025.12.14

出走馬一覧表

中山競馬場・阪神競馬場
中京競馬場



阪神11R

阪神ジュベナイルフィリーズ(GI)

中山11R

カペラステークス(GIII)



2025香港国際競走

LONGINES Hong Kong International Races 2025

香港ヴァーズ(GI)
LONGINES Hong Kong Vase

香港スプリント(GI)
LONGINES Hong Kong Sprint

香港マイル(GI)
LONGINES Hong Kong Mile

香港カップ(GI)
LONGINES Hong Kong Cup

12月14日(日) 香港 シャティン競馬場

※変更情報は JRA ホームページ等でご確認ください



香港ヴァーズ

G1

香港・シャティン競馬場

2,400^{メートル}(芝) 3歳以上

日本時間12月14日(日) 15時10分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。
変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

強力な布陣のヨーロッパ勢が参戦

芝2,400^{メートル}という競走条件だけに、過去10年のうち半数の5年において欧州調教馬が優勝。日本調教馬も4勝しており、欧州vs日本という戦いの構図となっている。

今年も欧州勢は強力な布陣だ。

昨年のこのレースの勝ち馬**ジアヴェロット**(牡6歳)。今シーズンはここまで4戦し、カルパナを2着に退けてG3セプテンバーSを制したほか、G1コロネーションC3着、G1凱旋門賞4着と、この路線の最前線で好成績をあげている。1年前よりスケールアップしている印象だ。コース適性の高さを実証済みなのは大きな強みである。

今年9月にG1バーデン大賞を制し、昨年のG1キングジョージVI世&クイーンエリザベスSに次ぐ2度目のG1制覇を果たしたのが**ゴリアット**(騾5歳)だ。前走G1ブリーダーズカップターフで大敗した後、参戦プランのあったジャパンカップを自重し、ここを目標にじっくりと調整されている。

1,850^{メートル}から2,400^{メートル}の距離カテゴリーで3つのG1を制しているのが、フランスにおけるこの路線のトップホース、**ソジー**(牡4歳)だ。同馬を管理するのは、このレース過去3勝と、香港での勝ち方を知っている伯楽アンドレ・ファール調教師である。

欧州からはさらに、**アルリファ**(牡5歳)も参戦予定。2歳時に1,400^{メートル}のG1ヴィンセントオブライエンナショナルSを制している馬だが、年齢を重ねるにつれて走る距離を延ばし、4歳8月に2,400^{メートル}のG1ベルリン大賞、今年9月に2,800^{メートル}のG1愛セント

レジャーを制している。前走G1メルボルンC7着後、拠点のアイルランドに戻って再調整されての参戦となっている。

ここに日本から挑むのが、昨年の菊花賞(GI)勝ち馬**アーバンシック**(牡4歳)だ。今シーズンはここまで3戦未勝利だが、前

走の天皇賞(秋)(GI)は、休み明けで、しかも適距離よりは短い2,000^{メートル}戦だったにも関わらず、出走馬2番目の時計となる上がり3ハロン32秒2(推定)の脚を繰り出し、勝ち馬から0.2秒差の5着に善戦。力のあるところを示している。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	戦績	主な勝鞍
アーバンシック		牡4	11戦 4勝	24菊花賞(GI)
ジアヴェロット		牡6	22戦 8勝	24香港ヴァーズ(G1)
ゴリアット		騾5	17戦 8勝	25バーデン大賞(G1)、24キングジョージVI世&クイーンエリザベスS(G1)
ソジー		牡4	12戦 6勝	25イスバーン賞、25ガネー賞、24パリ大賞 ※すべてG1



アーバンシック



ジアヴェロット



ゴリアット



ソジー

当コーナーの情報は12月7日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。

当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

LONGINES Hong Kong Vase

香港スプリント

香港・シャティン競馬場
1,200メートル(芝) 3歳以上

日本時間12月14日(日) 15時50分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。
変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

短距離界の絶対的存在・カーインライジングが連覇を目指す

過去10年のうち9年において、香港調教馬が優勝しており、地元勢が圧倒的の優位に立っているのがこのレースだ。

今年も、地元香港に絶対的存在がいる。言わずもがな、昨年に続くこのレース連覇を目指す**カーインライジング**(騾5歳)だ。24年2月から継続している連勝が15まで伸びており、香港における最多連勝記録まであと“2”と迫っている同馬。今年10月には豪州に遠征し、総賞金2000万豪ドル(=約19億2400万円)のG1ジ・エベレストに優勝。11月23日に行われた前哨戦のG2香港ジョッキークラブスプリントでも、最後の150メートルを軽く流しながら、自らが持つトラックレコードに0秒13差に迫る好時計で優勝。付け入る隙のない強さを見せつけている。

地元香港勢では、短距離重賞でカーインライジングの2着が5回ある**ヘリオスエクスプレス**(騾6歳)、前哨戦のG2香港ジョッキークラブスプリントがカーインライジングの2着だった**ファストネットワーク**(騾5歳)らも、高い能力を持つ馬たちだ。

欧州からここに参戦するのが**カーデム**(騾9歳)である。23年・24年とロイヤルアスコットのG1クイーンエリザベスII世ジュビリーSを連覇している同馬。今シーズン後半は米国で3戦し、G2ウッドフォードSを制し、G1ブリーダーズカップターフスプリント3着と、まもなく10歳になるという年齢を全く感じさせないパフォーマンスを続けている。

年齢的衰えがない点では、日本から参戦する**ウインカーネリアン**(牡8歳)も同様だ。

8歳を迎えた今年の秋にスプリンターズS(GI)を制し、悲願のGI初制覇を果たした同馬。海外遠征はこれが4度目で、今年春のドバイではG1アルクオーツスプリントで2着に好走。アウェイへの対応力も証明済みである。

アウェイでも力を存分に発揮できる点では、今年の高松宮記念(GI)勝ち馬**サトノレーヴ**(牡6歳)も同様だ。過去2度の香港遠征では、3着と2着に好走。今年6月にはロイヤルアスコットのG1クイーンエリザベスII世ジュビリーSでも2着に入っている。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	年齢	戦績	主な勝鞍
ウインカーネリアン	日本	牡	8	33戦 9勝	25スプリンターズS(GI)
サトノレーヴ	日本	牡	6	15戦 8勝	25高松宮記念(GI)
カーインライジング	香港	騾	5	18戦16勝	25ジ・エベレスト、24香港スプリントなどG1 5勝
カーデム	英国	騾	9	43戦10勝	24・23クイーンエリザベスII世ジュビリーS(GI)



ウインカーネリアン



サトノレーヴ



カーインライジング



カーデム

当コーナーの情報は12月7日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。

当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

LONGINES Hong Kong Sprint

香港国際競走 日本馬の足跡

Part
1



香港ヴァーズ (G1) 芝2,400m

日本馬が近10年で4勝

2001年に**ステイゴールド**が「日本産・日本調教馬による初の海外G1制覇」を果たしたことで知られる当レース。

その後は2005年シックスセンス2着、2012年ジャガーメイル2着など惜しいレースはあったものの、しばらく日本馬による勝利はなかったが、2016年に**サトノクラウン**が優勝すると、2019年と2021年は**グローリーヴェイズ**が、2022年には**ウインマリリン**が制覇するなど、近10年で計4勝を挙げている。

優勝馬以外でも2018年リスグラシュー、2019年ラッキーライラック、2023年ゼッフィーロは2着に入るなど近年は好走例が多い。

●香港ヴァーズ 日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	タイム	人気
2022	ウインマリリン	牝5	D. レーン	手塚 貴久	2:27.53	2人気
2021	グローリーヴェイズ	牡6	J. モレイラ	尾関 知人	2:27.07	1人気
2019	グローリーヴェイズ	牡4	J. モレイラ	尾関 知人	2:24.77	3人気
2016	サトノクラウン	牡4	J. モレイラ	堀 宣行	2:26.22	4人気
2001	ステイゴールド	牡7	武 豊	池江 泰郎	2:27.8	

注記：人気はJRAでの発売（2016年以降）のもの



2001年 ステイゴールド

写真：AFP/アフロ

●昨年のレース

道中は後方待機、4コーナーで外からまくり、一時は先頭に立ったステレンボッシュだったが、直線内から2頭にかわされ3着。逃げたブラダリアは11着。優勝は英国のジアヴェロット。



2024年 香港ヴァーズ (優勝：ジアヴェロット)



香港スプリント (G1) 芝1,200m

ロードカナロアが短距離王国の地で連覇

香港スプリントは過去26回のうち、短距離王国と呼ばれる香港馬が20勝を挙げている。

日本馬はダイタクヤマトとメジロダークリングが出走した2001年以降、多くのGI馬、重賞勝ち馬達が挑戦したが、2011年までの最高着順は、2011年の5着(カレンチャン)であった。

そんな高い壁を、日本馬で最初に打ち破ったのは2012年の**ロードカナロア**だ。ロードカナロアは、2012年の香港スプリントを2着馬に2馬身半差をつけて快勝すると、翌2013年には5馬身差をつける走り で連覇した。

その後、しばらくまた香港馬による勝利が続いたが、2020年にストップをかけたのは、ロードカナロア産駒で、同じ安田隆行厩舎の**ダノンスマッシュ**であった。

●香港スプリント 日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	タイム	人気
2020	ダノンスマッシュ	牡5	R. ムーア	安田 隆行	1:08.45	3人気
2013	ロードカナロア	牡5	岩田 康誠	安田 隆行	1:08.25	
2012	ロードカナロア	牡4	岩田 康誠	安田 隆行	1:08.50	

注記：人気はJRAでの発売（2016年以降）のもの



2012年 ロードカナロア

写真：AFP/アフロ

●昨年のレース

2番手からレースを進めた香港のカーインライジングが直線抜け出しG1初制覇。日本のサトノレーヴは内から伸びたが3着。トウシンマカオは9着、ルガルは11着だった。



2024年 香港スプリント (優勝：カーインライジング)

香港国際競走 日本馬の足跡

Part
2



香港マイル(G1) 芝1,600^{メートル}

日本馬初制覇は2001年エイシンプレストン

香港マイルを日本馬で初めて制したのは2001年の**エイシンプレストン**。同馬は後に香港のクイーンエリザベスII世Cを連覇するが、この香港マイルが海外初G1制覇だった。

次に日本馬でこのレースを勝利した2005年の**ハットトリック**と、その次の2015年の**モーリス**は、ともにマイルチャンピオンシップからの連勝だった。

直近の日本馬の優勝は2019年の**アドマイヤマーズ**。2018年の朝日杯フューチュリティS、2019年NHKマイルCで勝利していた同馬は、前走は富士Sで9着と敗れていたが見事に巻き返し、日本の3歳馬では2005年のシーザリオ以来となる海外G1制覇を果たした。

●香港マイル 日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	タイム	人気
2019	アドマイヤマーズ	牡3	C. スミヨン	友道 康夫	1:33.25	5人気
2015	モーリス	牡4	R. ムーア	堀 宣行	1:33.92	
2005	ハットトリック	牡4	O. ペリエ	角居 勝彦	1:34.8	
2001	エイシンプレストン	牡4	福永 祐一	北橋 修二	1:34.8	

注記：人気はJRAでの発売(2016年以降)のもの



2001年 エイシンプレストン

写真：ロイター/アフロ

昨年のレース

2番手からレースを進めた香港のヴォイッジバブルが直線抜け出して優勝。ソウルラッシュは後方から外をまわって追い込んだが届かず2着。ジャンタルマンタルは13着だった。



2024年 香港マイル(優勝:ヴォイッジバブル)



香港カップ(G1) 芝2,000^{メートル}

2019年～2021年は日本馬が3連覇

1995年優勝の**フジヤマケンザン**をはじめ、これまでに日本馬が8勝と好成績を収めている香港カップ。近年では2019年から2021年にかけて3連覇を果たしている。

2019年は、同年4月のクイーンエリザベスII世Cを制していた**ウインブライト**が、香港G12勝目を挙げた。翌2020年は**ノームコア**が前年の覇者ウインブライトを2着に退け、日本の牝馬として初の香港国際競走優勝を果たした。

そして2021年は、同年のクイーンエリザベスII世C、ブリーダーズカップフィリー&メアターフを制しているオックス馬**ラヴズオンリーユー**が、自身の引退レースとなったこのレースを勝ち、有終の美を飾った。

●香港カップ 日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	タイム	人気
2021	ラヴズオンリーユー	牝5	川田 将雅	矢作 芳人	2:00.66	1人気
2020	ノームコア	牝5	Z. パートン	萩原 清	2:00.50	5人気
2019	ウインブライト	牡5	松岡 正海	畠山 吉宏	2:00.52	1人気
2016	モーリス	牡5	R. ムーア	堀 宣行	2:00.95	1人気
2015	エイシンヒカリ	牡4	武 豊	坂口 正則	2:00.60	
2001	アグネスデジタル	牡4	四位 洋文	白井 寿昭	2:02.8	
1998	ミッドナイトベット	牡4	河内 洋	長浜 博之	1:46.9	
1995	フジヤマケンザン	牡7	蛸名 正義	森 秀行	1:47.0	

注記：人気はJRAでの発売(2016年以降)のもの。ミッドナイトベット、フジヤマケンザン優勝時は香港国際カップ(G2)として芝1800^{メートル}で行われた



2019年 ウインブライト

写真：REX/アフロ

昨年のレース

道中4番手追走の香港馬ロマンチックウォリアーが、直線抜け出してこのレース3連覇。後方待機から直線、外を伸びてきたリパティア일랜드は2着。先行したタスティエーラは3着。



2024年 香港カップ(優勝:ロマンチックウォリアー)

香港マイル

G1

香港・シャティン競馬場
1,600^{メートル}(芝) 3歳以上

日本時間12月14日(日) 17時00分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。
変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

6年ぶりの日本馬制覇なるか

過去10年のうち8年において優勝しているのが、地元香港勢だ。

昨シーズン、香港三冠を達成した**ヴォイッジバブル**(騾7歳)。11月23日のトライアルデーでは、2,000^{メートル}のG2香港ジョッキークラブカップに出走したが、本番ではこちらに矛先を向けてきた。昨年のこのレースを含めマイルG1・3勝。1,600^{メートル}は適距離だ。2度の海外遠征ではいずれも大敗を喫しているが、戦いの場が香港である限りは、容易ならざる敵となる。

4歳シーズン終盤から5歳シーズン序盤にかけて重賞3連勝を果たし、この路線の前線に台頭したのが**ギャラクシーパッチ**(騾6歳)だ。その後は、G1香港スチュワーズC2着など好走もありながら7連敗。だが、久しぶりにプリンカーを着用して臨んだ11月23日のG2香港ジョッキークラブマイルでは、直線で最内を突く鞍上J.マクドナルド騎手の大胆な騎乗にも助けられ、1年1か月ぶりの勝利を手に行っている。

そのG2香港ジョッキークラブマイルで、オッズ1.4倍の圧倒的1番人気に推されていたのが**マイウィッシュ**(騾5歳)だ。昨シーズンの香港クラシックマイル勝ち馬で、今シーズン序盤にG3セレブレイションカップ、G2シャティントロフィーを連勝。この路線の新興勢力として、大きな期待を寄せられた。香港ジョッキークラブマイルでは4着に敗れたが、勝ち馬との差は1馬身で、巻き返しの余地は充分にある。

19年のアドマイヤマーズ以来6年ぶり5度目のこのレース制覇を目論む日本は、いずれも2つのGI(G1)を制している一線級2頭を送り込む。

4着だった23年、2着だった24年に続き、3年連続の参戦になるのが**ソウルラッシュ**(牡7歳)だ。今年4月にはG1ドバイターフで、

香港の英雄ロマンチックウォリアーに先着して2度目のG1(GI)制覇を達成している。

今年の3歳二冠牝馬**エンブロイダリー**(牝3歳)。桜花賞(GI)を含めて2重賞を制しているマイルこそ最適距離と見込まれての参戦だ。父アドマイヤマーズとの父娘制覇がかかっている。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	年齢	戦績	主な勝鞍
エンブロイダリー	日本	牝	3	8戦 5勝	25秋華賞(GI)、25桜花賞(GI)
ソウルラッシュ	日本	牡	7	28戦 9勝	25ドバイターフ(G1)、24マイルチャンピオンシップ(GI)
ギャラクシーパッチ	香港	騾	6	22戦 9勝	25ジョッキークラブマイル(G2)、24シャティントロフィー(G2)
マイウィッシュ	香港	騾	5	14戦 6勝	25シャティントロフィー(G2)



エンブロイダリー



ソウルラッシュ



ギャラクシーパッチ



マイウィッシュ

当コーナーの情報は12月7日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性があります。

当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

LONGINES Hong Kong Mile

香港カップ

香港・シャティン競馬場
2,000ドル(芝) 3歳以上

日本時間12月14日(日) 17時40分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。
変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

4連覇を狙うロマンチックウォリアー VS 日本勢

過去10年を振り返れば、それぞれ5勝ずつと、全く互角の戦いを展開している日本調教馬と香港調教馬だが、今年、わが日本勢にとっての情勢は芳しくない。

22年から24年まで、このレースを3連覇している**ロマンチックウォリアー**(騏7歳)という、難攻不落の敵が今年も待ち受けているのだ。今年序盤は中東で3戦し、G1ジェベルハッタを制したほか、G1サウジカップとG1ドバイターフがいずれも僅差の2着だった同馬。帰国後の獣医検査で左前肢球節を負傷しているのが見つかり、手術を受け、7か月半にわたって休養。復帰戦となったのが11月23日のG2香港ジョッキークラブカップだったが、持ち前の剛脚を披露して快勝。健在ぶりを誇示した。

今年ここに日本勢は、3頭出で臨む。

昨年、今年と、大阪杯(GI)を連覇しているのが**ベラジオオペラ**(牡5歳)だ。右回りの2,000円戦は、最も力を発揮できる舞台である。父は香港スプリント連覇のロードカナロア。その産駒にも香港スプリントの勝ち馬ダノンスマッシュがいる。さらに母の父ハービンジャーは、20年のこのレースの勝ち馬ノームコアの父と、香港適性の非常に高い血統背景を持つ。

同じく、ロードカナロア産駒の**ロードデルレイ**(牡5歳)。1馬身差の2着だった今年4月の大阪杯(GI)を含めて、良馬場の2,000円戦は、ここまで6戦3勝、2着3回と、100%の連対率を誇る。ここは、本領を発揮

できる舞台だ。

これが4度目の海外遠征となる**ローシャムパーク**(牡6歳)。近走の成績はひと息だが、24年のG1ブリーダーズカップターフで、そのレース2度目の優勝を果たしたレベルスロマンスに、クビ差まで迫ったパフォーマンスが今も鮮烈な印象として残る。100%

の競馬が出来れば、争覇圏に絡んでおかしくない。

一方、ここに仏国から参戦する**キジサナ**(牝5歳)。G1ジャンロマネ賞を制しているほか、G1英チャンピオンズフィリーズ&メアズSでも3着となっている、欧州牝馬戦線におけるトップホースの1頭である。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	年齢	戦績	主な勝鞍
ベラジオオペラ	●	牡	5	13戦 6勝	25・24大阪杯(GI)
ローシャムパーク	●	牡	6	19戦 6勝	23産経賞オールカマー(GII)
ロードデルレイ	●	牡	5	11戦 6勝	25日経新春杯(GII)
ロマンチックウォリアー	✠	騏	7	26戦19勝	25ジェベルハッタ、24・23・22香港カップ、24安田記念などG1(GI)10勝



ベラジオオペラ



ローシャムパーク



ロードデルレイ



ロマンチックウォリアー

当コーナーの情報は12月7日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。

当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

LONGINES Hong Kong Cup

SHA TIN RACECOURSE

シャティン競馬場 コース紹介

1978年に九龍半島の新界エリアに開場したシャティン競馬場は香港に2つある競馬場のうちの1つ。香港におけるほとんど全ての重要なレースがここで行われている(香港の重賞31レース中、30レースを施行)。その中でもハイライトとなっているのが香港カップ(芝2,000㌦)をメインとして、香港スプリント(芝1,200㌦)、香港マイル(芝1,600㌦)、香港ヴァーズ(芝2,400㌦)と4つのG1を1日でまとめて行う香港国際競走で、世界的に見ても年末の国際的な競馬イベントとして定着している。

シャティン競馬場は楕円型の右回り。1周1,899㌦、最後の直線430㌦の芝コースと、その内側にある1周1,555㌦、最後の直線365㌦のオールウェザーコースからなる。芝コースには2本のシュート(引き込み走路)が伸びており、香港マイルの芝1,600㌦戦や直線だけで行われる芝1,000㌦戦などのスタート地点として使われている。なお、香港国際競走が行われる芝コースは、向こう正面が最後の直線よりもやや高くなっているが、傾斜は緩やか。スピード能力が求められるコースで、特に12月の香港は雨が少なく、軽い芝になりやすいだけに、その特徴がより際立つ。

香港国際競走4レースのうち、コース設定上で最も注意したいのは芝2,000㌦の香港カップ。発走後200㌦足らずで最初のコーナーに入るため、基本的に外枠は不利。また、芝1,200㌦の香港スプリントもゲートから最初のコーナーまでは300㌦ほどと短めなため、こちらも外枠はやや不利。短距離戦であることも相まって、スタートの重要性が高い。

(文・秋山響)

